

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201252
法人名	NPO法人 ケア・サポート
事業所名	シーサイド
所在地	愛媛県今治市吉海町臥間46-2
自己評価作成日	平成23年1月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護する側・される側ではなく、人としての関わりを大切にしたい。利用者も職員も常に笑顔で過ごせるようにしていきたい。地域に根付いた施設となるよう、努力していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

窓からは、山や海、港が一望できる。客船の出入りで、時計代わりに時間を感じられる方もおられるようだ。開設当時より行われている島四国の縁日の「お接待」を通して、巡礼者の方と利用者が顔なじみになっておられ、年に1度、再会できることを楽しみにされている。「お接待」では、法人でぜんざいを振舞われており、利用者は、ぜんざいに入れる白玉団子を職員と一緒に作っておられる。
年2回、夏祭りやクリスマス会に合わせて「家族会」を行っておられ、食事を利用者とともに楽しんでいただながら、ご希望をお聞きしたり、運営推進会議で話し合った内容等を報告されている。ご家族の訪問時には、必ず「何かお気づきの点はないですか」と職員が声をかけるようにされている。
利用者は、入浴を好まれる方が多く、毎日入浴される方もおられる。時間についても、午前、午後等、希望に応じて入浴できるよう支援されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

シーサイド

(ユニット名)

えがお

記入者(管理者)

氏名

菊川 孔子

評価完了日

23年 1月 17日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) えがおを理念にフロアのよく見えるところに掲示し、共有できるよう努めている。	
			(外部評価) 事業所では、ユニット別に理念を掲げておられる。介護度の高い方が多い2階ユニットは「笑顔」と掲げ、利用者に「1日に1度でも笑顔を見せていただけるような支援」に努めておられる。3階ユニットは「元気」と掲げ、利用者に「いきいきと暮らしていただくため」利用者個々の「行きたいところ、やりたいこと」を引き出せるよう、取り組みをすすめておられる。各ユニットの居間には、利用者にも見られるよう、漢字とひらがな両方の大きい文字で理念を掲示しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩時など地域の人からも親しく声をかけて頂いたり、畑作りを通して苗を貰ったり、作り方を教えて頂いたりしている。地方祭、夏祭り等地域の方、ボランティアの方々に協力してもらっている。民生員、民舞、保育所の訪問又、教室(レクリエーション)には気持ちよく来て下さりみんな楽しみにしている。	
			(外部評価) 開設時より月に1度、利用者とともに行われている札所の清掃は、車椅子を使用している利用者も、ほうきを使って掃く等して参加されている。地域の方からは「きれいにさせていただいてありがとうございます」と感謝の言葉をいただいた。11月、併設事業所と共同で開催した「文化祭」では、民生委員の会や婦人会の方が踊り等を披露してくださり、利用者は踊りを見学されたり、事業所の畑で収穫したさつま芋を焼き芋にして、参加者の方に振舞われる等された。保育園の園児と、年2～3回「世代交流」をされており、事業所に来て利用者の肩たたきをしてくれたり、一緒にお絵かきをしながら触れ合っておられる。公民館で行われる「地域の文化祭」には、利用者がレクリエーションで作られた砂絵や陶芸等の作品を出品されており、知り合いの方が「出しとったね」と声をかけてくださることもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎年島四国遍路市には、接待させて頂いている。入居者も職員も参拝者に喜んで頂けるよう努めている。島内、また遠方からおまいりに来られる人に「接待楽しみにしています。」と喜んで頂けるようになりうれしく思っている。毎月定期的に散歩時等札所の清掃を行い、最近いつもきれいになって。と喜んでもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度の運営推進会を開き事業所の新聞、行事、利用者状況などを報告させて頂き、施設への要望など気さくな意見を頂いている。	運営推進会議の意義や目的等も踏まえ、いろいろな方に事業所の取り組みを具体的に知ってもらったり、認知症の理解を拡げたり、事業所のケアサービスについて意見や感想を具体的にお聞きするような機会を作り、事業所のさらなるケアの質向上に活かしていかれてほしい。
			(外部評価) 民生委員、地域の総代の方等に出席していただき、併設の小規模多機能事業所と合同で会議を開催されている。会議は、市の担当者の日程の都合等も考慮して日程調整して、グループホームからは、ご家族1名等決まったメンバーで集まり開催されている。会議時、地域の総代の方より「大島が出るテレビ番組」を教えていただき、職員は利用者として、利用者の見慣れた場所等が映ると、とても喜ばれたようである。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 支所の推進メンバー以外にも、市役所からの訪問があり、意見を頂いている。	
			(外部評価) 市、地域包括支援センター、市社協の担当者や地域の介護事業所等が集まって、今年1月に第1回の「地域ケア会議」を開催された。今後は、定期的に会議を開催して、連携しながら地域全体の高齢者の暮らしを支えていくために「これからどのようにしていくか」を話し合われるようだ。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設内研修等で勉強会を開き職員間で意思統一を図る。また、ケアの中でも職員間で話をし統一を図る。	
			(外部評価) 「身体拘束」「虐待」「個人情報の保護」等について、内部研修を行っておられる。ベットから転落の危険性のある方の居室には畳が1枚用意されており、夜間はベットサイドに敷くようにされている。エレベーターや階段は、職員が付き添って昇降することになっており、1階に設置されているジュースの自動販売機に、職員と一緒にジュースを買いに行く利用者もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内研修等で勉強会を開き職員間でも意思統一が出来る様努力している。家族とも話す機会を作っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度福祉サービス利用援助事業のパンフレットを常備しいつでも利用できるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に家族さんとよく話し不安や心配な事をお聞きし重要事項説明書などで十分説明し理解、納得していただけるようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 受付に意見箱を設置している。シーサイド新聞で個々の様子など家族にお知らせしている。年2回の家族会では食事をしながらお話をうかがっている。	
			(外部評価) 毎月、小規模多機能事業所と合同で手書きの「シーサイド新聞」を発行されている。新聞では、来月の行事予定をお知らせしたり、行事の様子等を写真入りで報告されている。又、新聞の角には、担当の職員がご本人の様子を書き込むスペースがあり、ご本人の日々の様子を伝えておられる。年2回、夏祭りとクリスマス会に合わせて「家族会」を行っておられ、食事を利用者とともに楽しんでいただきながら、ご希望をお聞きしたり、運営推進会議で話し合った内容等を報告されている。ご家族の訪問時には、必ず「何かお気づきの点はないですか」と職員が声をかけるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングの時また、日常的に会話を積極的に行うようにしている。気付いたこと、改善できる事など話し合い、前向きに検討している。	
			(外部評価) ミーティングは、月1回行われており、外部講師を招き研修する時間も設けておられ「介護技術」や「認知症について」等、勉強を重ね、職員の身に付くよう取り組まれている。調査訪問時、昼食の時間、目が見えにくくなった利用者が食事をし難そうな様子を見て「色付きの食器にしてみてもどうか」と他の職員に話しているような場面も見られた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 全職員に研修参加の機会を作っている。利用者個々に担当を決めたり月行事を分担し計画をたて皆で協力し実施している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修内容を全職員に提示し参加できる機会を作っている。順次資格を取る様に勉強会も行っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修の機会を通じてのネットワークづくり法人内の事業所間の合同ミーティングを開催し研修を行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所相談時、本人・家族を交えての面接により情報収集を行い、入居までに職員間で共有できるように話合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所相談時、本人・家族を交えての面接により情報収集を行い、入居までに職員間で共有できるように話合っている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所時、本人、家族を支えての面接により情報収集し、インフォーマルなサービスも含めて対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護する側される側でなく、もし自分だったら、家族だったらという思いで関わらせて頂くように努めている。昔ながらの行事などは利用者様に教えて頂きながら一緒に行うようにし、対等な関係を作れるように努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 随時、家族の言葉を尊重し利用者にとって何が一番いいのかを考え介護にあたるよう努めている。夏祭り、クリスマス等施設の行事を家族と一緒にしたり、外出レク等には家族にも参加して頂いたり、常に家族とスタッフが連携をとりいい関係づくりが出来るよう努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 希望により外出レク(買い物レク)また、散歩、札所の掃除などを通して顔見知りの人とのふれあいが出来るように支援している。また、絵手紙を送ったり電話をかけたリまた、馴染みの美容室に行ったりしている。	
			(外部評価) 開設当時より行われている島四国の縁日の「お接待」を通して、巡礼者の方と利用者が顔なじみになっておられ、年に1度、再会できることを楽しみにされている。「お接待」では、法人でぜんざいを振舞われており、利用者は、ぜんざいに入れる白玉団子を職員と一緒に作っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりが孤立しない様職員が入居者の間に入り声掛けしたり話題を見つけ会話しやすいように関わっている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 医療的管理などが必要となりやむなく退所の場合、お見舞いをしたり家族の相談にのらせていただいている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉で表現できない本人の想いは表情や仕草から気づくように努めている。また、面接時は電話連絡の際家族からも新たな情報収集できる様努めミーティングなどで統一したケアが出来るように話合っている。	
			(外部評価) 入居時に、センター方式を用いてご本人のこれまでのことや現在の様子について情報を集めるようにされているが、認知症の症状が進行してから入居に至る方が多く、ご本人とのお話の中から情報を得ることが難しいようである。施設長は、「職員が利用者の思いを感じとり、感じとった思いを他の職員にも伝えられるようになってほしい」と話しておられた。	さらに、ご本人主体の支援を実践していくためにも、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向を探り、情報を蓄積して、職員間で情報を共有していかれてほしい。さらに、利用者個々の「できること」「できそうなこと」についてもアセスメントに取り組み、「元気」「笑顔」につながるような生活支援を実践につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所相談時、本人・家族を交えての面接時情報収集し職員間で共有している。入所してからは生活の中からまた、家族面会時など新しい情報収集できるよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入所相談時、本人・家族を交えての面接の時の情報収集を基本に日々の関わりの中から見つけて行く。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>本人・家族の想いを尊重しながら、現状把握に努め、全体ミーティングでみんなの意見を出し合い計画し実施している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>3ヶ月に1度モニタリングを行い、基本的に6ヶ月毎に計画の見直しをされている。ご家族の訪問時や電話でケアや生活について希望をお聞きしている。「好きなことをして過ごしてもらいたい」等のご家族の希望や、ご本人からは「草引きや畑仕事がしたい。楽しく生活していきたい」等の希望が出されており、計画に反映させて、職員は、札所や事業所の畑の草引き・収穫等を楽しみながら行えるような支援に努めておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>個別ケア記録を作成し関わりが誰でもわかる様にし、カンファレンスの時には参考にしてはいる。また、計画の見直しにも役立てている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>希望により外出、外泊また、外出、外泊時の注意点、帰所された時はその時の様子を細かく連絡しあう様にしている。また、理美容利用、個人的な買い物等にも同行支援している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>希望により外出、外泊また、外出、外泊時の注意点、帰所された時はその時の様子を細かく連絡しあう様にしている。また、理美容利用、個人的な買い物等にも同行支援している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>地域の敬老会、敬老の家への参加、定期的な民生委員さんの訪問、手芸、砂絵、習字教室などボランティアの受け入れ文化祭への出展中学生の職場体験の受け入れ地域消防との連携など積極的に関わりが持てるようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>地域の敬老会、敬老の家への参加、定期的な民生委員さんの訪問、手芸、砂絵、習字教室などボランティアの受け入れ文化祭への出展中学生の職場体験の受け入れ地域消防との連携など積極的に関わりが持てるようにしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>地域の敬老会、敬老の家への参加、定期的な民生委員さんの訪問、手芸、砂絵、習字教室などボランティアの受け入れ文化祭への出展中学生の職場体験の受け入れ地域消防との連携など積極的に関わりが持てるようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価) 健康状態を常に気をつけている。かかりつけの医師との連携を密にし、上申または受診している。月に一度は定期健診を受け家族にも報告をしている。	
			(外部評価) 協力医を受診する際は、職員が同行され、協力医以外を受診の際は、基本のご家族に付き添いをお願いされている。併設デイサービスに、毎日、理学療法士が来られており、利用者も必要に応じて、リハビリが受けられるようになっている。	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価) 情報を共有個々の利用者が適切な受診や看護が受けられる様支援する。	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価) かかりつけ医、協力医との連携を持ち主治医や看護師と日頃から相談できる関係づくりをし、情報交換に努めている。	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価) かかりつけ医、協力医との連携を密にして気軽に相談できる関係作りをしている。ターミナルなどが考えられる場合は早い段階で意向確認している。	
			(外部評価) 事業所では、協力医と連携をとりながら、ご本人が重度化した場合でも、できる限りホームで過ごしていただけるよう支援されている。医療が必要になった場合は、協力医が受け入れてくれるようになっており、ご家族は「何かあったら病院へ」と希望する方がほとんどのようである。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時どうすればいいかマニュアルを作っている。すぐに医療機関と連携が取れるようにしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練や災害訓練を行いどう対応すればいいかを身に付けている。地域消防署との連携もあり協力体制にある。また、今年度スプリンクラーの設置も完了している。 (外部評価) 年2回、避難訓練を実施されている。3月に予定されている訓練では、地域の消防団に協力をいただくよう計画されている。職員は、「夜間は、法人内施設の夜勤職員や施設内に法人副理事長である施設長がおられ、すぐに連絡できる体制であり心強い」と話しておられた。	さらに、高齢化率の高い、事業所が所在する地域の実情を踏まえ、いろいろな災害を想定して地域の方達とも、ともに避難訓練を重ねていかれてはどうだろうか。相互協力体制の整備等にも取り組まれてはどうだろうか。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーを損ねるような言動はないか職員間で着あう機会を設けている。個人情報の取り扱いにも注意し合っている。 (外部評価) 職員が利用者に対して「～ちゃん」と呼び掛けている場面や「アーン」と言いながら利用者の口に食事を運ぶ場面等も見受けられた。転倒の危険性があり、ヘッドギアを装着されている方が複数おられ、施設長は「食事中でも急に行動を始めるため、もしもの時のためにご家族の了解を得て装着している」「職員が1対1で付き添える時や車椅子に乗っている時には外している」と話しておられた。	利用者への対応や言葉かけについて点検されたり、又、ヘッドギアの着用等についても利用者ご本人の立場に立って考える等、この機会を「利用者の尊厳を守る」という観点から日々のケアについて話し合う機会にされてはどうだろうか。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉で表現できない利用者には表情や仕草などから理解できるように努力している。出来ない事は手伝ってもらったりして、自分の役割、やりがいを見つけて頂けるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事、入浴時間も可能な限り本人の希望、要望を聞きその日の体調に合わせてながら支援している。眠れなかった時などは、日中居室で休む時間をとり、体調管理に努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服などは出来るだけ本人に選んで頂くようにしている。着脱、整髪、モーニングケアは必要に応じて手伝わせて頂き理美容は本人希望で選択してもらっている。また、行きつけの理美容室にも行けるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人の合った食事形態を工夫し嚥下しやすい様にし、誤嚥の予防に努めている。食後のテーブル拭き、お膳拭きなども手伝ってもらっている。外食レク等も行っている。畑で採れた野菜で漬物を作ったりもしている。誕生会では本人の好きな物を希望して頂き、お好み焼き、タコ焼きなど一緒に作り楽しんでいる。	
			(外部評価) 食事は、法人の厨房から「おかず」が届くようになっている。ご飯と汁物は、各ユニットで作っておられる。月に1度「お刺身の日」があり、訪問調査当日は、板前さんが厨房で地元で釣れた新鮮な魚を調理してくださったようだ。お刺身が苦手な方は、煮魚にされていた。事業所の畑で採れた大根で作った漬物が添えられてあった。厨房でおかずを作るため、利用者の食べたいものが献立に反映できにくいこともあり、おやつは、週に1回、利用者の希望を聞いて手作りにされている。利用者からは、どら焼きやプリン、焼きそばやたこ焼きの希望が多いようだ。回転ずし等の外食に出かけることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が作った献立を使用。水分量を記入し摂取量が分かる様にしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。個人で歯ブラシ、はみがき粉を用意している。自分で出来ない人は職員ががガーゼで拭くなどしている。塩分でうがいをするなど風邪予防もしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し排泄パターンを個別でつかみトイレで排せつできる様支援している。また、定期的に声かけし誘導を行っている。	
			(外部評価) 夜間は紙おむつの方も、昼間はリハビリパンツにされ、トイレで排泄することを支援されている。車椅子を使用する方が多く、使用されるトイレには「トイレ」の表示を低い位置に示しておられた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給をこまめに行いレクや散歩などの運動を行う事により便秘予防に努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば毎日入浴できるようにしている。身体状況が許せば柔軟に対応している。入浴剤を入れるなど気分転換も図っている。	
			(外部評価) 浴室のガラス窓は、すりガラスのようになっており、自然の光が入っていた。利用者は、入浴を好まれる方が多く、毎日入浴される方もおられる。時間についても、午前、午後等、希望に応じて入浴できるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の散歩やレク等で活動量を増やしたり、手浴、足浴などし、気持ち良く眠れるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医療品情報はカルテにはさみスタッフがいつでも調べる事が出来るようにしている。必要に応じ本で調べたり看護師に聞くなどしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 畑の草とり、お膳拭き、テーブル拭き等利用者のできる事を手伝って頂き、身体能力に合わせ役割を持って頂けるよう関わっている。また、誕生日には本人に希望を聞き好きな物を作ってお祝いしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の体調様子を見ながら散歩や外出をしている。札所掃除外出レク等で近所の方と交流を図っている。外食レク等も行い家族も参加される事もある。町開催の文化祭には自分たちの作品を見に行く等地域の催しに参加している。花見、紅葉を見に出かけている。 (外部評価) お天気のよい日は、事業所の周辺を散歩されている。事業所近くの道の駅「ようみいきいき館」や島内にある洋品店に買い物に行かれることもある。時には橋を渡って、大型スーパーで買い物をされたり、四国八十八箇所の第五十五番札所である「南光坊」をお参りされることもある。3月には「網敷天満神社」へ、梅を見に出かける計画をされていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) おこずかい程度を預かっている。散歩時や買い物レクなどでいつでも使用可能にしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 定期的にレクで作った絵はがきで便りをだしたり、暑中見舞い、年賀状なども出している。希望があれば電話もできるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 24時間換気システムを導入、また、定期的に窓を開け換気を行っている。花を飾るなど季節感が採り入れられるようにしている。	
			(外部評価) 窓からは、山や海、港が一望できる。客船の出入りで、時計代わりに時間を感じられる方もおられるようだ。窓際に、畳の一角があり、足を伸ばして休む方もいる。移動時には車椅子を使用する方も、居間では椅子に座り、足が床に着かない方には、足台を置くようにされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアにテーブル、椅子だけでなく移動畳を置きた、サンルームの窓から外を眺められるよう空間づくりを行っている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の好きな物作品などを飾って落ち着いて生活できる様にしている。	
			(外部評価) ぬいぐるみを好まれる方の居室には、ご家族が持って来られたぬいぐるみが並べて飾られてあった。レクリエーションの時間に、ご自分で書いた習字の作品や砂絵・ステンドグラスの作品を飾っている方も見られた。各居室には洗濯物を干す備品が置かれてあり、天気の良い日には、利用されているようである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、浴室など共用部分はわかりやすい様、目の高さに表示している。	
			(外部評価)	